

平成 23 年度 PCB 廃棄物未処理事業者処理推進立入結果について

1 目的

豊田市 PCB 廃棄物処理計画では、日本環境安全事業㈱（以下、JESCO という。）にて処理が可能な高濃度 PCB を含む廃重電気機器（高圧コンデンサ等。以下、PCB 廃棄物という。）については、平成 20 年度末までに処理をすることとしているが、平成 23 年 9 月現在、未処理である事業者等について立入を実施して PCB 廃棄物の保管状況を確認するとともに、早期処理を促す。

2 対象

平成 23 年 9 月 1 日現在で、PCB 油を含む重電機器を使用もしくは PCB 廃棄物を保管中の計 49 事業場の内、現在既に JESCO で処理を進めている 5 事業場及び現時点では JESCO において漏洩や規格外等の理由で処理ができない 8 事業場を除いた、36 事業場を対象とした。

区分	H23 年度	(参考) H22 年度
未処理事業場	49	65
処理中事業場	5	5
現時点で処理困難事業場 ※1	8	13
処理可能事業場 ※2	36	47

※1 保管事業者による調査で、処理可能か判断がつかないものを含む

※2 黄色網掛けが今回の立入対象

3 結果

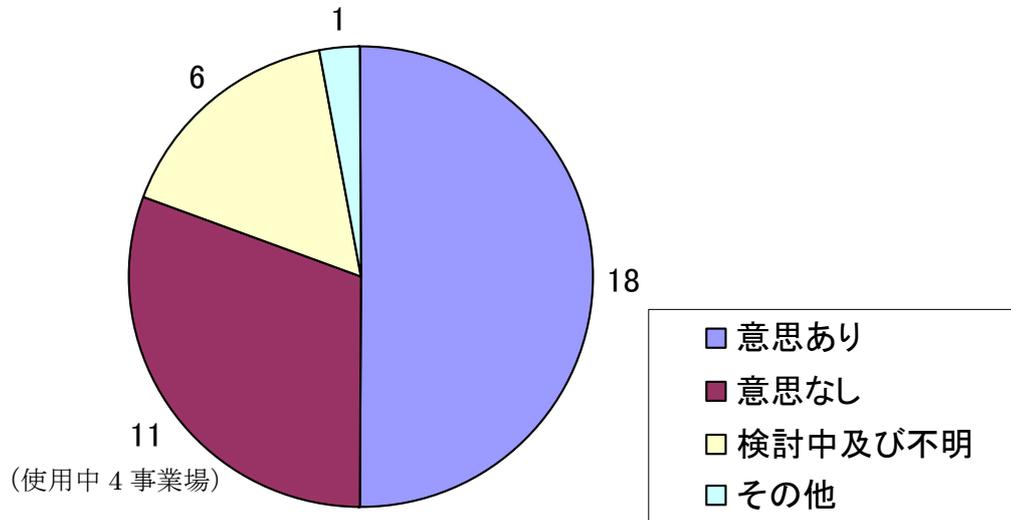
【立入日】

9 月 7 日～10 月 13 日（環境保全課及び廃棄物対策課職員）

【概要】

- ・ 36 事業場の内、1 事業場で保管してあったコンデンサが盗難にあったと申し立てがあった。
- ・ 保管状態が良くない事業場が、3 事業場あったため、口頭指導した。
- ・ 早期処理の意志について確認したところ、半数の 18 事業場が『早期処理の意志がある』と回答し、11 の事業場（内、使用中は 4 事業場）が『早期処理の意志がない』と回答し、残り 6 事業場については、『検討中』若しくは担当者不在で処理の意志が『不明』であった。
- ・ 『早期処理の意思がない』と回答した事業場の詳細な理由については、「使用中であり処理期限まで使い続ける」、「処理費用が工面できない」等であった。

図 PCB保管事業者処理推進立入結果



4 今後の予定

- ・ 早期処理の意志を示した 18 事業者については、JESCO と協力し、早期処理の促進（処理手続きの案内等）をしていく。
- ・ 今後も早期処理の実現のため、定期的に保管・使用事業者に対して立入検査を実施していく。